

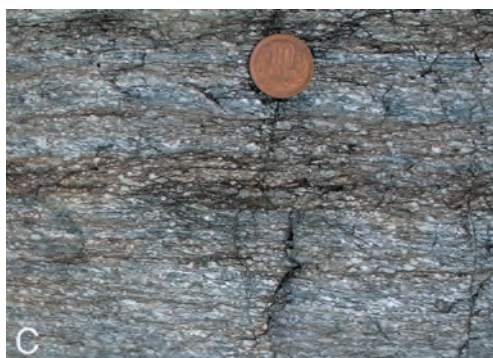
20万分の1地質図幅「八代及び野母崎の一部」の見どころ1

＜斎藤 眞¹⁾・宝田 晋治¹⁾・利光 誠一²⁾・水野 清秀¹⁾・宮崎 一博¹⁾
 星住 英夫¹⁾・濱崎 聡志³⁾・阪口 圭一⁴⁾・大野 哲二⁴⁾・村田 泰章¹⁾＞



A) 市房山の頂上のわずかに左から江代山までが中新世の市房山花崗岩。中央部の鞍部を人吉盆地と同方向の正断層が通る。白矢印間はほぼ水平な延岡構造線で手前右下につながる。上盤側が白亜紀付加体で急峻、下盤側は古第三紀付加体で平坦(人吉盆地北側, 相良村-あさぎり町境界の北岳神社付近から図幅東縁部を撮影)。

B) 低温高压変成を受けた枕状溶岩。枕の隙間に藍閃石が密集。ほとんど未変形。噴出時は左上が上位。“秩父帯”ジュラ紀付加体を構造的に覆う蛇紋岩メランジのブロック。表紙と同じ露頭(八代市東陽町河俣北西の氷川支流の河床)。



C) 後期カンブリア紀の氷川トータル岩。マイロナイト化作用を受けている(八代市東陽町立神狭の氷川河床)。

D) 後期三畳紀の厚歯二枚貝メガロンの密集層。“秩父帯”のジュラ紀～前期白亜紀付加体の最下部(後期ジュラ紀～前期白亜紀付加体)に特徴的に見られる。写真中央に10円玉のスケール(球磨川中流部球泉洞前(槍倒)の河床)。

E) チャート角礫岩。右上位の級化層理をなす。“秩父帯”の中期～後期ジュラ紀付加体(樺木ユニット相当)のチャートと碎屑岩が衝上断層で繰り返すタイプにしばしば見られる(阿久根市戸柱)。

F) “四万十帯”後期白亜紀の付加体の千枚岩。片状構造が顕著(人吉盆地の北側のあさぎり町須恵諏訪ノ原)。(撮影 斎藤 眞)



1) 産総研 地質情報研究部門 3) 産総研 地質分野研究企画室
 2) 産総研 地質標本館 4) 産総研 地図資源環境研究部門